

問 1

社会調査に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 郵送調査法は、遠隔地までの広い範囲での調査が可能で、回収率も高い。
2. 配票調査法（留め置き法）は、調査員が複数回、調査対象を訪問する必要があるが、回収期日の長さによっては数多くの質問を含む調査に適している。
3. 郵送調査法は、集合調査法に比べ、回収率が高いという点で優れている。
4. 電話調査法は、一対一で話すという電話の特性上、個人のプライバシーにかかわる調査に適している。
5. 事例調査は、統計調査と比べて客観的な情報を収集するのに優れている。

問 3

社会調査法に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

1. 自記式調査法より、他記式調査法の方が、相対的に高い回収率を上げることができる。
2. 集合調査法の短所として、周りに人がいることにより、回答がゆがめられやすい点を挙げることができるとは限らない。
3. 留め置き調査法の利点は、回答者が自分のペースで質問に回答できる点である。
4. 郵送による調査の利点は、訪問による調査より、調査費用を相対的に安くあげることができる点である。
5. 訪問による調査は、調査対象が地理的に広範に散在している場合に向いている。

問 2

社会調査法に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 調査対象者の中から一部分の人を選んで調査し、選んだ標本から調査対象者全員について推定を行う調査を悉皆調査という。
2. 郵送調査法は、調査対象者に対して調査票を郵送し記入のうえ返送してもらおう調査法であるが、本人以外の記入や郵解、誤記入などの危険性についてはあまり考えなくて良い。
3. 配票調査法では、回答者のプライバシー保護に配慮した回収方法を取る必要がある。
4. 参与観察法を実施する場合、調査者が部外者として観察するため、観察の対象者に警戒されないよう注意する。
5. 自由面接法において、配線をとるために録音や録画のための機器を使用すると、自然な会話にならないこともあるので、調査対象者に機器を気づかれぬようにしなければならぬ。

問 4

郵送調査法に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

1. 本人以外の記入の危険性がある。
2. 返送率が一般に低い。
3. 遠隔地の対象者を調査する場合によく用いられる。
4. 督促状を必ず出さなければならない。
5. 誤解や誤記入による回答の危険性がある。